

実社会との接点を重視した課題解決型学習プログラムに係る実践研究  
実施方法等

## 1. 実践校について

実践校名	(しりつ さかえきたこうとうがっこう) 私立 栄北高等学校		
学科名	生徒数	学級数	
普通科	975	28	

## 2. 実践研究の対象

普通科 第2学年 310名 普通科 第3学年 191名 合計 501名

## 3. 実践研究の実施経過

平成29年度

- 4月 年間ガイダンス・地域学習（伊奈町の現状と課題を認識する）
- 5月 選挙制度講話（平成国際大学、伊奈町選挙管理委員会）
- 6月 町役場訪問・町議会傍聴  
大学生との課題解決法の学習（法政大学キャリアデザイン学部）
- 7月 街頭調査
- 9月 政策提言書の作成
- 10月 大学生との協同学習（法政大学キャリアデザイン学部）
- 11月 パネルディスカッション・模擬投票
- 12月 政策提言書のとりまとめ
- 2月 国際理解教育講話（国際協力分野）
- 3月 町役場・町議会報告訪問

## 4. 実践研究の実施体制

本校所在の伊奈町は都心より約40kmの位置にあり、埼玉県内では県南地域に位置する。町内を自動車一周すると約40分ほどであり、本校所在地から町内の各所へは自転車でも比較的容易に移動が可能である。連携した地域の諸機関（伊奈町役場、伊奈町議会、伊奈町商工会、伊奈町観光協会）は、本校から約4kmに位置している。実践研究の実施体制としては、本校の校務分掌に「キャリア教育」を昨年度設置した。この分掌担当者を中心に、本研究活動を計画・実施した。また、地域の諸機関との連携を行う窓口として機能させた。

## 5. 教育委員会等として取り組んだ内容

本研究活動の実施状況について随時、本学園の広報紙である「さとえ学園新聞」に掲載し、保護者や系列校等広く報告をおこなった。

## 実社会との接点を重視した課題解決型学習プログラム（概要）

実践校名：私立 栄北高等学校（普通科）

**概要**

- 政策提言書の作成、パネルディスカッション、模擬投票の活動を通じて、社会問題に主体的に取り組もうとする、自律して自立した市民の育成を図る学習プログラムを開発する。

**学習プログラムの目標**

- 自律して自立した市民の育成を図る。
- 社会問題に主体的に取り組もうとする意欲を養う。
- 課題解決策を考える中で、論理的な思考力を養う。
- 政策提言書の発表、パネルディスカッション、模擬投票の活動を通じて、コミュニケーション力を養う。
- 政策提言書の作成、パネルディスカッション、模擬投票の活動を通じて、実際の政治や選挙への関心を高める。

**学習プログラムの主な内容**

- ① 地域学習  
政策提言書の作成を行うための事前学習として、本校所在の伊奈町の行財政について、町 HP および町広報紙をもとに地域学習を行った。
- ② 選挙制度講話  
実際の選挙制度の理解のために系列の平成国際大学法学部の教授および、伊奈町選挙管理委員会の職員を招いての講話を実施した。
- ③ 町役場訪問・町議会傍聴  
伊奈町における実際の行政のあり方および町議会運営のあり方の理解のために、伊奈町役場の訪問および、町議会傍聴を行った。
- ④ 大学生との課題解決法の学習  
論理的な思考方法および課題解決法の学習のため、連携した法政大学キャリアデザイン学部の学生を招き、学習を実施した。
- ⑤ 街頭調査  
政策提言書の作成を行うための事前学習として街頭調査を行い、住民の町政に対する意見や考えを収集した。
- ⑥ 政策提言書の作成  
地域振興の政策提言書の作成を行った。
- ⑦ 大学生との協同学習  
政策提言書の作成過程で、大学生との協同学習を実施した。

- ⑧ パネルディスカッション・模擬投票  
作成した政策提言書をもとにパネルディスカッションを行い、また模擬選挙を実施した。
- ⑨ 国際理解教育講話  
文部科学省 国立教育政策研究所より大野彰子氏を招き、国際支援の実際についての講話を行った。
- ⑩ 町役場・町議会報告訪問  
伊奈町役場・伊奈町議会を訪問し、本年度の学習成果を報告した。

#### **学習プログラムの成果の概要**

- 生徒の意識・態度の変化、能力の向上
- 教員の意識の変化
- 地域実社会の諸機関との良好な関係の形成